

カプセル化が混在する STUN の設定

目次

[概要](#)

[はじめに](#)

[表記法](#)

[前提条件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定](#)

[ネットワーク図](#)

[設定](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、カプセル化が混在するシリアル トンネリング (STUN) を設定する場合の設定例を紹介します。

[はじめに](#)

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

[前提条件](#)

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

[使用するコンポーネント](#)

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのような作業についても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

[設定](#)

この項では、このドキュメントで説明する機能の設定に必要な情報を提供します。

注: このドキュメントで使用されているコマンドの詳細を調べるには、[Command Lookup Tool](#) ([登録ユーザ専用](#)) を使用してください。

ネットワーク図

このドキュメントでは次の図に示すネットワーク

設定

このドキュメントでは次に示す設定を使用しています。

- ルータ A
- ルータ B

ルータ A
<pre>stun peer-name 1.0.0.1 stun protocol-group 9 sdlc interface serial 0 encapsulation stun stun group 9 stun route address c1 tcp 5.0.0.1 stun route address c2 interface serial 1 direct interface serial 1 encapsulation stun stun group 9 stun route address c2 interface serial 0 direct interface loopback 0 ip address 1.0.0.1 255.255.255.0</pre>
ルータ B
<pre>stun peer-name 5.0.0.1 stun protocol-group 9 sdlc interface serial 0 encapsulation stun stun group 9 stun route address c1 tcp 1.0.0.1 interface loopback 0 ip address 5.0.0.1 255.255.255.0</pre>

注: 上記のダイアグラムで示されていないが、時間を記録することは DCE によって供給される必要があります。これをする簡単な方法は Cisco DCE ケーブルをルータ側の使用し、[clockrate configuration コマンド](#)を発行することによって行います。わかりやすくするために、IP ルーティング、WAN設定、SDLCアドレスおよび他の SDLC 固有のコンフィギュレーションは上に示されていません。この設定は STUN が混合カプセル化でどのように使用することができるか強調表示します。詳細については、『[シリアル トンネリング \(STUN \) の設定とトラブルシューティング](#)』を参照してください。

確認

現在、この設定に使用できる確認手順はありません。

[トラブルシューティング](#)

現在のところ、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。

[関連情報](#)

- [STUN/BSTUN サポート](#)
- [テクニカルサポート - Cisco Systems](#)